

韮崎市立小中学校適正規模・適正配置 検討委員会 第2回会議 会議録

日時：2025/08/07 18:25～20:02

場所：韮崎市役所 別館 201 会議室

出席委員：清水宏幸、飯野直人、横内郷志、保坂耕、松永辰美、星ひろ美、山本政広、
塚田浩、興石麻美、作地秀二、根岸利文、内藤香織、金丸光太郎

欠席委員：萩原長人

（事務局）市長、教育長、望月課長、秋山リーダー、川端指導主事、河西、若尾、
作成者：教育委員会事務局

1 会議の概要

令和7年8月7日、韮崎市役所別館 201 会議室において「韮崎市立小中学校適正規模・適正配置検討委員会」第2回会議が開催された。本委員会は、少子化の進行に伴う児童生徒数の減少を背景として、将来にわたり持続可能な教育環境を確保することを目的に設置されたものであり、韮崎市立小中学校の適正な学校規模および学校配置のあり方について検討を行うことを目的としている。

本委員会では、学校教育の質を維持しながら地域の実情に即した学校運営を実現するため、児童生徒数の推移、学校施設の状況、通学環境、地域社会との関係など、多角的な視点から議論を進めていくこととしている。第1回会議では、韮崎市における学校教育の現状や児童生徒数の推移、学校規模に関する基本的な考え方について説明が行われ、委員から多くの意見が寄せられた。

第2回会議では、これらの議論を踏まえ、国および山梨県における学校規模の考え方、本市が直面している教育環境上の課題、さらに児童生徒および保護者を対象として実施したアンケート調査の結果について事務局から説明が行われた。委員会では、これらの資料をもとに、学校規模のあり方や学級人数に関する考え方について議論が行われ、今後の検討の方向性について共有が図られた。

2 教育長挨拶（要旨）

教育長は冒頭の挨拶において、本委員会の開催にあたり委員の出席に対する謝意を述べるとともに、日頃から本市の学校教育の推進に対して理解と協力をいただいていることに感謝の意を表した。

教育長は、第1回委員会においては韮崎市の小中学校が置かれている現状や今後の課題について説明し、委員から多くの意見が寄せられたことを振り返り、地域に根差した学校教育を将来にわたってどのように維持し、発展させていくかという課題の重要性について改めて言及した。

近年、全国的に少子化と人口減少が進行する中で、学校教育を取り巻く環境は大きく変化している。児童生徒数の減少により学校の小規模化が進む一方で、教育内容の多様化や教育の質の向上が求められている。このような状況の中で、子どもたちにとって望ましい教育環境とは何かを改めて考え、学校規模や学校配置のあり方について検討を進めていく必要があると述べた。

また、国や山梨県においても学校規模に関する考え方は一律に定められているものではなく、地域の実情や教育環境を踏まえながら各自治体が主体的に検討することが求められている。本委員会においても、子どもたち一人ひとりに目が行き届く教育環境を確保することを最優先としながら、地域の状況や将来の人口などを踏まえた丁寧な議論を進めていきたいとの考えが示された。

3 国および山梨県における学校規模の考え方

事務局からは、学校規模に関する国および山梨県の基本的な考え方について説明が行われた。国においては、児童生徒が一定の集団の中で学び合い、多様な人間関係を築くことができる教育環境を重視しており、学校規模について一定の目安を示している。しかしながら、地域ごとの人口規模や地理的条件、通学環境などは自治体によって大きく異なることから、最終的な学校規模の判断については各自治体の検討に委ねられている。

また、山梨県では児童一人ひとりに目が行き届く教育を実現するため、小学校において独自の少人数学級制度を導入している。この制度により、教員が児童の学習状況や生活面をより丁寧に把握しながら指導を行うことが可能となっている。

韮崎市においても、このような制度や国の考え方を踏まえながら、教育の質を確保しつつ持続可能な学校運営を実現するための学校規模のあり方について検討を進める必要があることが説明された。

4 アンケート調査の実施概要

本委員会の検討資料として、児童生徒および保護者を対象としたアンケート調査が実施された。アンケートは、学校生活に対する児童生徒および保護者の意識や考え方を把握し、今後の検討の基礎資料とすることを目的として実施されたものである。

調査対象は、小学校 5・6 年生の児童、小学生の保護者、中学校 1 年生から 3 年生の生徒、中学生の保護者の 4 つの区分であり、学校を通じて配布・回収が行われた。児童生徒については学校で回答を行い、保護者についてはオンライン等の方法により回答を依頼した。

アンケートでは、学校生活の良い点、学校生活の課題、望ましい学級人数、望ましい学級数などについて質問が行われ、児童生徒や保護者がどのような学校環境を望んでいるのかを把握することを目的としている。

5 アンケート結果の概要

アンケート結果の中で特に注目されたのは、学級人数に関する回答である。児童生徒に対して「1 学級あたりの人数として望ましい人数」を尋ねた設問では、多くの児童生徒が 20 人程度の学級が望ましいと回答していた。

大規模校の児童の約 64% が 20 人程度の学級が望ましいと回答しており、小規模校の児童においても約 41% が同様の回答をしていた。この結果から、児童生徒の多くが一定の人数の中で友人関係を築きながらも、教師の目が行き届きやすい規模の学級を望んでいる傾向があることが示された。

現在の蕨崎市内の学校においても、20 人前後の学級が多く見られることから、現在の学習環境が児童生徒の意識にも影響を与えている可能性があると考えられる。

6 学級人数に関する委員意見の概要

アンケート結果の説明を受けて、委員からは学級人数のあり方について意見が出された。委員からは、1 学級 20 人程度であれば教師が児童生徒一人ひとりの状況を把握しやすく、学習面だけでなく生活面においてもきめ細かな指導が可能になるのではないかと意見が示された。

また、一定程度の人数がいることで友人関係の広がりや多様な意見交換が可能になることから、学習活動や学校行事などにおいてもより活発な教育活動が期待できるのではないかと意見も出された。

これに対し教育長からは、山梨県では小学校において 25 人学級が導入されているので、児童数によっては結果的に 20 人前後の学級となるケースが多く、蕨崎市内の学校においても多くの学級が 20 人台前半の規模となっていることが説明された。

7 アンケート設問の表現に関する補足説明

第1回委員会において議論となったアンケート設問の表現についても補足説明が行われた。当初、学校の状況について「良くない点」という表現を使用することが検討されていたが、学校教育を否定的に受け取られる可能性があるとの意見を踏まえ、「課題」という表現に変更したことが報告された。

事務局からは、このアンケートは学校の教育活動を批判することを目的とするものではなく、子どもたちがより良い学習環境で学ぶためにはどのような環境が望ましいのかを把握するためのものであることが改めて説明された。

8 今後の検討の方向性

第2回委員会では、アンケート結果や国・県の制度について理解を深めることを中心に議論が行われた。今後の委員会では、これらの結果を基礎資料としながら、菰崎市における望ましい学校規模や学校配置の考え方について具体的な検討を進めていく予定である。

児童生徒数の減少が続く中で、教育の質を維持しながら持続可能な学校運営を実現するためには、地域の状況や通学環境、学校施設の状況なども踏まえた総合的な検討が必要となる。本委員会では、子どもたちにとってより良い教育環境を実現するという視点を中心に据え、引き続き多様な観点から議論を深めていくこととなった。